



ペアレント・メンター
アドバンス研修事業 報告書

平成 26 年 3 月

特定非営利活動法人 愛知県自閉症協会・つぼみの会

目 次

1. はじめに
2. 2013年度の事業目的
3. 2013年度応用研修Ⅴ報告
4. 2013年度までの愛知県でのペアレント・メンター研修の履歴
5. 各研修内容について
6. 研修の意義
7. 愛知県での各活動について
8. 今後の課題
9. 最後に

1. はじめに

愛知県では 2005 年度のベーシック研修以前より、愛知県自閉症協会、アスペ・エルデの会、LD 親の会かたつむり、えじそんくらぶ名古屋、の発達障害児・者の親の会である四団体がそれぞれ事業を展開し、それぞれ機動力を持っています。また、愛知県、名古屋市の行政の会議にもこれら親の会などが参加し、行政とのつながりもあります。しかし、当時はまだ「親が人前で話すとは・・・」という一般認識の中であり、その活動は研修を開催したり、陳情に行ったりという影の活動が多くみられました。

ここ数年、「発達障害」ということばが広く知られるようになり、その理解のために四団体それぞれが活動したり、四団体そろって事業を行ってきたりしました。ペアレント・メンター事業は、この愛知県において、親の活動の幅を大きく広げる一助となり、社会資源の一部となってきました。しかし、愛知県下すべてが同じようになっているわけではなく、市区町村それぞれの認知度、支援の充実については温度差があり、県下に均等に浸透していくにはまだまだ時間がかかります。

ペアレント・メンター養成研修は 2010 年度より厚生労働省の発達障害者支援体制整備事業として施策化され、今では様々な県で養成研修がすすんでいます。しかし、現時点では、パッケージ化されているベーシック研修、フォローアップ研修、サポートブック作成リーダー養成研修までにとどまっており、その後の継続研修には至っていません。また、養成研修から活動につながっているところが数多くあるわけではなく、養成研修で終わってしまっているところも見られます。

ここで、パッケージとなっている養成研修後の5年間の継続研修および活動を振り返ることで、これから事業を展開する他県の方への参考になればと思っています。

2. 2013 年度の事業目的

愛知県では 2005 年度に最初の養成研修が行われ、その後 3 回の養成研修の結果、修了者は 70 名になります(ベーシック研修修了者:内、フォローアップ修了者 52 名、サポートブック作成リーダー研修修了者 42 名)。昨年度からは当应用研修講師陣で構成する日本ペアレント・メンター研究会を発足し(平成 26 年 1 月 29 日特定非営利活動法人として始動)、鳥取大学井上雅彦教授を代表とし、全国各地の養成研修にチームで対応することで、養成研修だけでなくその後の活動がスムーズにスタートできるよう依頼先と話を進めています。この愛知県では、その先を進んでいる地域として、研修・活動の活性化のメンターに何が必要か、どのような研修が 5 年にわたり試行してきています。今年度においても「研修」「活動」「発表」と三つに分け、それぞれの目標を設定し、進めてきました。

1) 研修

① 応用研修Ⅴの実施、そのねらい

応用研修は、発達障害児者のライフステージにおける支援についてテーマを順に設定してきました。最後となる応用研修Ⅴにおいては、未就学、とりわけ診断前後など障害受容の最中にある保護者への対応を中心に設定しました。未就学での障害受容には知的障害をもつ子ども、保健所の検診で要観察となった子どもなど、親としては一番辛い時期でもあり、メンターにおける共感・傾聴など一番の特性を発揮できる分野の相談の時期でもあります。改めて基本となるこの時期を 5 年間の研修の最後に持ってくることで、メンター相談の特徴について再認してもらうよう企画しました。また、以前から性教育についての希望が多くあがり、今後変化していく診断基準という二つのテーマで公開講座を行いました。

(5 ヶ年をもって応用研修のサイクルを終了する理由としては、「6. 研修の意義」に記載)

② 事例検討会

当初、事例検討会は、日本財団助成事業として計画・申請・承認をうけておりましたが、2013 年度愛知県発達障害者支援体制整備事業におけるコーディネーター予算においてこの事例検討会も予算化されることになり、愛知県の予算での開催が実現しました(2010 年度より 2012 年度までは日本財団助成事業として開催)。3 年間の助成事業の成果として愛知県予算で開催されるということは、行政に認められた成果として今後全国各地への発信材料になるかともなるかと思えます。

③ 他県のペアレント・メンターとの情報交換・交流

この応用研修の大きな狙いのひとつに「他県メンターとの交流」もあります。ペアレント・メンター養成研修が各県の行政予算で開催されている昨今は、県を越えた参加者同士がなく、他県ではどのような家族支援があり、リソースの違いなどの比較もできず、自県の情報のみにとどまってしまう。ペアレント・メンター活動をしていくには自県の特徴・進んでいるところ・遅れているところを知っていることで、様々な引き出しも生まれてきます。この応用研修は「メンター研修」と銘打つものの中で、数少ない他県メンターと一緒に研修に参加できるものではないかと思っています。今後、この応用研修による他県メンター同士の交流、一緒に考えていく時間を提供するため、今後は日本ペアレント・メンター研究会として全国展開を図る経緯ともなりました。

④ 自県ペアレント・メンターとの交流

他県メンターとの交流と同じように、自県のメンター同士が一同に介して交流する必要も考えられます。4 期生までの愛知県では、同期・同じ親の会以外のメンターは名前も顔も知らないという状況になり、活動

のマッチングで始めてペアを組むことも考えられます。したがって、この 2 ヶ年においては、県外メンターが時間に余裕を持って名古屋に移動できるように一日目は午後からの開催とし、その午前には県下メンターの意見交換会、交流を行いました。

2)活動

①2代目コーディネーターを核とした活動

今年度、2名のコーディネーターに筆者の業務を引継ぎました。理由としては、今年度から愛知県予算においてコーディネーター業務への対価が保障されたことが大きくあげられます。従来の業務は対価が発生しない部分で筆者が行ってきていましたが、その業務に対価が保障されるこのタイミングで業務を担っていただくように安井貴子・三井春枝両名(共につぼみの会役員で2期生)には以前より他県研修に参加してもらったり、業務分担を進めてきました。業務に関してはマニュアルを作成し、それを元に業務を進めてきていただきました。今後は新しい2名のコーディネーターを中心に活動が活発化していくことを願っています。

②メンター通信

今までと同じく、応用研修時に一年間をまとめたメンター通信を発行、参加者に配布しました。関係機関、HP 記載の準備が今後行われます(参考資料①)。

③愛知県ペアレント・メンター等活動推進連絡会

現在、愛知県、名古屋市だけでなく、各市町村の問い合わせがきています。養成研修受講者について、ワーキンググループにて検討されている段階です(詳細は「7. 愛知県での各活動について」に記載)

3)発表

① 日本自閉症スペクトラム学会第 12 回研究大会(横浜国立大学)にてポスター発表

「発達障害ペアレント・メンター養成研修の評価方法についてーベーシック・フォローアップ研修の評価を中心にー」(参考資料②)

竹澤 大史(愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所)

井上 雅彦(鳥取大学大学院医学系研究科)

吉川 徹(愛知県心身障害者コロニー中央病院)

原口 英之(筑波大学大学院)

加藤 香(NPO 法人愛知県自閉症協会・つぼみの会)

3. 2013 年度応用研修Ⅴ報告

1) 研修について

応用研修Ⅴは一日目を公開講座、二日目を「未就学への対応」とし、計2日間で開催しました。なお、参加者の家庭状況を加味し、いずれか一日のみの参加も可能としました。これらの研修には、他県からの参加者も受け入れ、全国への研修推進の可能性を目的とし、他県からの参加が容易になるよう一日目は午後からの開催とし、愛知県下ペアレント・メンターのみは午前から「愛知ペアレント・メンターミーティング」を行いました。参加者は両日 43 名、一日目のみ 3 名、二日目のみ 7 名の 53 名(延べ 96 名)となり、この5年の応用研修の中で一番多い参加人数となりました。

2) 各種アンケート結果

①2013 年度応用研修Ⅴにおける参加者の事前アンケート

期 間:2013 年 12 月 20 日～2014 年 1 月 22 日

対 象:ペアレント・メンター応用研修Ⅴ研修受講者

方 法:「未就学支援」「性」に対する現況についてそれぞれ 5 段階(頻度・困難度)で回答

結 果:参考資料③応用研修Ⅴ事前アンケートシート ④同集計結果

「未就学について」については、その頻度およびペアレント・メンターが感じる困難度を、「性」については、相談経験あり・なしの選択から「あり」と回答したもののだけにその困難度をまとめました。

考 察:「未就学について」は、自身の経験と相談者の考えのギャップに戸惑うケースもあり、答えに困っているという記述もありました。「性」については個々の考え方、メンター自身の経験もあり、様々なケースに対応することがとても困難であることがわかりました。

②2013 年度応用研修Ⅴにおける参加者の事後アンケート

期 間:2014 年 2 月 15 日～16 日

対 象:ペアレント・メンター応用研修Ⅴ研修受講者

方 法:アンケート用紙に各單元について「よかった・普通・悪かった」という選択式、および自由記述それぞれの満足度、および自由記述をまとめました。

結 果:参考資料⑤応用研修Ⅳ事後アンケート

考 察:公開講座のテーマである「診断基準」「性について」は、本来メンター相談のテリトリーにおいて専門性の高すぎる内容であるため、そこまでの相談はあまり見られません。しかし、自身の子どもの診断について「今までもやもやしていた」「医師が変わるごとに診断名が違い振りまわされていた」という心境のメンターには、子どもがなぜそのような診断がついたのかという理由がわかり安心感につながったという回答がありました。自身の子どもについて安心している生活の基盤があってこそそのメンター活動であることから、「相談に」「活動に」ということではなく、「自身の安定材料」が提供でき、同じようなもやもやした気持ちを持つ相談者に「今後はどのように共感していけばいいか」と考えるきっかけになりました。「性について」は、具体的な事例を用いての講義から自身の子どもにおけるの性への対応がわかったという回答が多く、この2つの講義からは、相談に実際活用する知識ではなく、自身の子育てについて振り返るきっかけになったのではないかと推測されました。

「未就学について」は、自身の経験をついつい押し付けてしまったり、共依存に陥ってしまう傾向も

まれに報告されていることから「共依存にならないように」という内容には、受講者自身考える(振り返り、反省する)きっかけにもなり、またリレー講義においては、傾聴の重要性、パーソナルスペースからの距離感など様々な重要性を再認できました。

演習については、個々のロールプレイではなく、相談者にどのような声かけをしていくか、というファーストタッチの対応について、書きながら振り返るきっかけになったと同時に、グループ内のメンターの意見を聞くことで対応のバリエーションを得ることができたとの回答が多く見られました。

③2013年度一般公開セミナーにおける参加者事後アンケート

期 間:2014年2月15日 「公開講座:診断基準の移り変わり・性について」

対 象:上記研修参加者

方 法:アンケート用紙に各单元について「よかった・普通・悪かった」という選択式、および自由記述

結 果:参考資料⑥一般公開セミナー事後アンケート結果

考 察:よい評価をいただくことができました。教育関係者が3分の1を占めるという今までにない参加者傾向であり、とりわけ「性について」の関心が高く、教育現場における困難性が挙げられました。しかし、一般的な講義のみで具体的な方法を聞くことができる内容はあまりなく、タブー視されている問題だからこそ情報も対策も手探り状況であることがわかりました。その部分においての評価がかなり高くみられました。

4. 2013年度までの愛知県でのペアレント・メンター研修の履歴

2005年度 社団法人日本自閉症協会本部事業でペアレント・メンター養成が始まり8年が経過しました。当愛知県における研修は下記の通りです。

開催年度	研修内容	主催(財源)	参加者数	
			メンター数 (内愛知)	公開講座 参加者等
2005年度	ベーシック研修	社団法人日本自閉症協会本部 (日本財団助成事業)	30名 (6名)	
2008年度	ベーシック研修(2008.10.25～26) (公開講座あり)	社団法人日本自閉症協会本部 つぼみに委託(日本財団助成事業)	33名 (20名)	99名
	フォローアップ(2009.3.7)	愛知県自閉症協会 (愛知県発達障害者支援開発試行事業)	27名 (17名)	
	サポートブック作成リーダー養成研修(2009.3.8)		27名 (17名)	
2009年度	応用研修Ⅰ(2010.2.25～26) 困難事例について:メンター ペアレントメンターについて:支援者	愛知県自閉症協会 (愛知県発達障害者支援開発試行事業)	31名 (17名)	76名
2010年度	応用研修Ⅱ(2011.2.26～27) 学校:メンター 医療:一部公開	愛知県自閉症協会 (日本財団助成事業)	32名 (23名) 見学3名	74名
	事例検討会(3回)		延34名	
	ベーシック研修(2010.10.2～3) (公開講座あり)	あいち発達障害者支援センター (愛知県発達障害者支援体制整備事業)	19名	184名
2011年度	応用研修Ⅲ(2012.2.26～27) 基礎の振り返り、ストレスマネジメント:メンター 成年後見:一部公開	愛知県自閉症協会 (日本財団助成事業)	38名 (26名) 見学3名	74名
	事例検討会(4回)		延39名	
	フォローアップ(2011.7.3) サポートブック作成リーダー養成研修(2011.7.2)	あいち発達障害者支援センター (愛知県発達障害者支援体制整備事業)	(8名) (10名)	
2012年度	応用研修Ⅳ(2013.1.12～13) ペアレントメンター概論:公開 きょうだい・祖父母:メンター	特非)愛知県自閉症協会・つぼみの会 (日本財団助成事業)	32名 (23名) 見学9名	53名
	事例検討会(4回)		延53名	
	ベーシック研修(2013.1.26～27) (公開講座あり)	あいち発達障害者支援センター (愛知県発達障害者支援体制整備事業)	22名	126名
2013年度	フォローアップ(2014.1.18) サポートブック作成リーダー養成研修(2014.1.19)	特非)愛知県自閉症協会・つぼみの会 (愛知県発達障害者支援体制整備事業)	20名 14名	

	事例検討会(2回)		21名	
	応用研修Ⅴ(2014.2.15～16) 未就学児への相談 性教育について:公開	特非)愛知県自閉症協会・つぼみの会 (日本財団助成事業)	52名 (38名) 見学1名	92名

ペアレント・メンター養成研修終了後の応用研修については、行政予算からの算出は難しく、独自財源を確保し、新しい研修内容を検討し、開催してきました。その応用研修は5年にわたり開催され、延べ223名のペアレント・メンター(内愛知県下メンター127名)が参加しました。毎年、公開講座を併用して開催することで「ペアレント・メンター」の名称、その役割が広がるようになってきました。研修内容については「5. 各研修内容」に記します。

愛知県における応用研修は井上先生はじめ各先生方との検討をふまえ、ライフステージにあった内容を開催、その上で鳥取・徳島において同内容の研修を開催してきました。自県での開催については参加費が発生しても受講するメンターが多くみられますが、他県、特に遠方からの交通費・宿泊費を伴う場合には参加が難しい傾向があります。他県からの愛知の応用研修参加者については担当加藤が個人的につながっているメンター(その地方で核になっているメンター)が自費で参加しています。しかしながら、自県に戻っても応用研修を県下で開催するにはひとりでは難しい点が見られます。県内・県外参加者の推移は以下のようになります。

	日 程	テ ー マ	公開講座講師	受講延人数 (内愛知)	他県参加状況
I	22.2.27 (一日)	困難事例への対応	日詰正文 (厚労省専門官)	31名 (18名;58%)	6県(三重・奈良・鳥取・山口・神奈川・兵庫・宮城)より13名
II	23.2.26- 2.27 (二日)	学校について 医療について	大屋滋 (旭中央病院)	54名 (41名;76%)	4県(三重・神奈川・福井・山口)より13名
III	24.2.25- 2.26 (二日)	メンターのストレスマネジメント 成年後見	西村武彦 (道央法律事務所)	68名 (47名;69%)	7県(三重・奈良・福井・神奈川・岡山・沖縄・北海道)より21名
IV	25.1.12- 1.13 (二日)	メンター活動について 基礎の振り返り・祖父母・きょうだい	井上雅彦 日詰正文 吉川徹	57名 (40名;70%)	5県(三重・福井・富山・徳島・岡山)より17名
V	26.2.15- 2.16 (二日)	新しくなる診断規準、性について 未就学への対応	井上雅彦 吉川徹	96名 (74名;77%)	7県(三重・鳥取・山口・福井・富山・和歌山・滋賀)より22名

今後、全国にこの研修を広めるには、マニュアルだけでは難しいと思われます。講師・スタッフが地区に出向いて、地方の関係機関に働きかけながら開催を促していく必要があり、愛知県自閉症協会主催では県外に出られないため、この研修カリキュラムを開発・実施してきた研究会で引き継ぐ事で全国展開ができるのではないかと考えています。

5. 各研修内容

各研修についての受講対象者、スケジュール、会場、講師など以下に報告します。

1) ベーシック研修

【目的】研修受講者が、相談者と自分自身を守り、負担の少ない形で自分にあった活動ができるように、ペアレント・メンターによる相談支援の基本を学びます。

【対象】発達障害児・者の保護者で団体の所属長の推薦を得た者。当該団体において2年以上活動経験があることが望ましいです。

【定員】おおよそ30名

1日目

斜字は一般公開

時間	内容	講師	
11:00～11:15(メンターのみ)	オリエンテーション(受講の姿勢等)	リーダーインストラクター	15分
11:15～12:00(メンターのみ)	リソースブックの作り方と地域活動	メンター	45分
12:00～13:00	昼食 1時間		
13:00～13:10	主催者挨拶(メンター事業の紹介)		10分
13:10～14:00(一般公開)	基礎講座(支援セミナー) ①自閉症に対する理解と支援	講師	3時間
14:10～15:00(一般公開)	②ADHDに対する理解と支援		
15:10～16:00(一般公開)	③LDに対する理解と支援		
16:00～16:15(一般公開)	公開講座質疑応答		
16:15～17:00(メンターのみ)	自由意見交換と自己紹介		45分
17:30～19:30(メンターのみ)	懇談会(自由参加・会費制)		

2日目

時間	内容	講師	
10:00～11:00	①相談の技術	リーダーインストラクター	1時間
11:00～12:00	②ガイダンス ③ロールプレイオリエンテーション ④ロールプレイデモンストレーション	リーダーインストラクター	1時間
12:00～13:00	昼食		
13:15～15:15	ロールプレイ(6人×5グループ) リーダー1名+メンター1名:受講者6名	リーダーインストラクター インストラクター メンター	2時間
15:30～16:30	グループ報告・まとめ・修了証の授与		

① 会場

2008・・・名古屋市中企業振興センター

2010・・・名古屋市中千種区役所、愛知県産業労働センター(ウイंकあいち)(愛知県予算で開催)

2012・・・刈谷市産業振興センター(愛知県予算で開催)

② 講師・インストラクター・メンター

2008・井上雅彦(鳥取大学), 吉川徹(名古屋大学医学部附属病院), 原口英之(所沢市立教育センター), 大澤功(公立校教員), 榎並恭子・堀口麻由美(名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋), 永井小百合・和久田苑美(あいち発達障害者支援センター), 加藤香・岡田ひろみ・佐藤優美子・今村直美・横関広子(愛知県自閉症協会)

2010・吉川徹(名古屋大学医学部附属病院), 原口英之(筑波大学大学院), 竹澤大史(愛知県コロンビア発達障害研究所), 大澤功(公立校教員), 榎並恭子・今福多香子(名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋), 茶谷カンナ(あいち発達障害者支援センター), 加藤香・今村直美・宇佐美晴美・古井美樹・浅野雪香・伊勢村理恵子(愛知県自閉症協会), 内田啓子(NPO 法人えじそんくらぶ なごや親の会)

2012・吉川徹(愛知県心身障害者コロンビア中央病院), 竹澤大史(愛知県コロンビア発達障害研究所), 大沢佑輝(名古屋大学医学部附属病院), 小川真紀(名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋), 市川多香子・二宮諭(あいち発達障害者支援センター), 安井貴子・三井春枝・横関広子(特定非営利活動法人愛知県自閉症協会・つぼみの会)

2)フォローアップ研修

【目的】発達障害支援に関する国の動向を学び、ペアレント・メンターによる具体的な相談支援技術を身につけます。

【対象】ベーシックコース修了者

【定員】おおよそ30名

時間	内容	講師	
10:00～12:00	オリエンテーション 最新行政報告(厚生・教育・労働) 質疑応答		2時間
12:00～13:00	昼食(各地域の情報など意見交換)		60分
13:00～17:00	<p>■講義1「電話相談」</p> <p>■実技1「電話相談」 (グループ内でまとめ)</p> <p>～途中随時休憩～</p> <p>□講義2「インシデントプロセス法」</p> <p>□実技2「インシデントプロセス法」 (グループ内でまとめ)</p> <p>全体討議・まとめ・質疑応答</p>	<p>リーダーインストラクター</p> <p>インストラクター</p> <p>メンター</p>	4時間
17:00～17:20	修了証授与		

① 会場

2008・・・名古屋市高齢者就業者支援センター

2011・・・愛知県社会福祉協議会(愛知県予算で開催)

2013・・・名古屋市高齢者就業支援センター(愛知県委託事業として開催)

② 講師・インストラクター・メンター

2008・・・井上雅彦(鳥取大学), 吉川徹(名古屋大学医学部附属病院), 原口英之(所沢市立教育センター), 大澤功(公立校教員), 榎並恭子・堀口麻由美(名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋), 永井小百合・和久田苑美(あいち発達障害者支援センター), 加藤香・岡田ひろみ・佐藤優美子・今村直美・横関広子(愛知県自閉症協会)

2011・・・吉川徹(名古屋大学医学部附属病院), 原口英之(筑波大学大学院), 竹澤大史(愛知県コロンネ発達障害研究所), 榎並恭子・小川真紀(名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋), 加藤香・今村直美・横関広子(愛知県自閉症協会)

2013・・・吉川徹(愛知県心身障害者コロンネ中央病院), 竹澤大史(愛知県コロンネ発達障害研究所), 榎並恭子・栖村はるみ(名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋), 磯西舞(あいち発達障害者支援センター), 安井貴子・三井春枝・横関広子(特定非営利活動法事愛知県自閉症協会・つぼみの会), 内田啓子(NPO 法人えじそんくらぶなごや親の会)

3) サポートブック作成リーダー養成研修

【目的】この研修は、サポートブック作成研修を運営していくノウハウを学んでいきます。地域での開催などそのポイントから実際作成していく参加者へのアドバイスの方法などを学びます。

【対象】ベーシック、フォローアップ修了者

【定員】おおよそ 30 名

時 間	内 容	講 師	
14:00～14:20	オリエンテーション (サポートブック作成の意義と本講座の説明)	講師	20 分
14:20～15:00	地域で広げていくには デモンストレーション	講師	40 分
15:00～15:15	休 憩 (15 分) 見本展示		
15:15～15:45(30 分)	ワーク演習 (サポートブック作成)	インストラクター	55 分
15:45～16:10(25 分)	意見交換	メンター	
16:10～16:20	まとめ		10 分
16:20～16:30	修了証授与		

① 会場

2008・・・名古屋市高齢者就業者支援センター

2011・・・愛知県社会福祉協議会

2013・・・名古屋市高齢者就業支援センター(愛知県委託事業として開催)

② 講師・インストラクター

2008・・・井上雅彦(鳥取大学),原口英之(所沢市立教育センター),堀口麻由美(名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋),永井小百合(あいち発達障害者支援センター),加藤香(愛知県自閉症協会)

2011・・・原口英之(筑波大学大学院),加藤香・三井春枝・横関広子(愛知県自閉症協会)

2013・・・吉川徹(愛知県心身障害者コロニー中央病院),竹澤大史(愛知県コロニー発達障害研究所),榎並恭子・栖村はるみ(名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋),中澤和美・磯西舞(あいち発達障害者支援センター),安井貴子・三井春枝・横関広子(特定非営利活動法人愛知県自閉症協会・つぼみの会)

4)応用研修 I

【対 象】ベーシック研修修了者(要修了確認)

【定 員】30～50名

1 日目「メンターコース」

時 間	内 容	講 師	
11:00～11:05	オリエンテーション	リーダーインストラクター	5 分
11:05～11:30	国の発達障害者施策において、 ペアレントメンター養成に期待すること	厚生労働省 専門官	25 分
11:30～12:00	地域リソースの活用について		30 分
12:00～13:00	昼 食		
13:00～14:00	相談に行き詰ったときの解消法について	リーダーインストラクター	60 分
14:00～16:00	事例検討会 (1グループ 5～6人)	インストラクター スタッフメンター	2 時間
16:00～16:30	グループ報告・まとめ		

2 日目「支援者コース」

時 間	内 容	講 師	
13:00～13:05	主催者挨拶		5 分
13:05～13:35	ペアレントメンター事業について	リーダーインストラクター	30 分
13:35～14:05	国の発達障害者施策において、 ペアレントメンター養成に期待すること	厚生労働省 専門官	30 分
14:05～14:35	ペアレントメンター活動の実際	メンター	30 分
14:35～15:05	地区活動における留意点		30 分
15:05～15:45	メンター活動についての今後の課題 (公開パネルディスカッション)		40 分
15:45～16:00	まとめ・質疑応答		15 分

① 会場

2009・・・名古屋市高齢者就業支援センター

② 講師

井上雅彦(鳥取大学), 吉川徹(名古屋大学医学部附属病院), 日詰正文(厚生労働省), 原口英之(所沢市教育センター), 大澤功(公立校教員), 永井小百合・和久田苑美(あいち発達障害者支援センター), 榎並恭子・堀口麻由美(名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋), 加藤香(愛知県自閉症協会)

③ 公開講座演者

井上雅彦(鳥取大学), 吉川徹(名古屋大学医学部附属病院), 日詰正文(厚生労働省), 原口英之(所沢市教育センター), 加藤香(愛知県自閉症協会)

5) 応用研修Ⅱ

【対 象】ベーシック修了者(要修了確認)

【定 員】30～50名

1 日目「ペアレントメンター:学校との上手な付き合い方」

時 間	内 容	講 師	
10:00～11:00	講義:学校との関係について (就学支援・進路指導・転級・転学)	リーダーインストラクター	60分
11:00～11:30	相談現場から見る保護者との付き合い方 (教員の理解)		30分
11:30～12:00	教育現場から見た教員と保護者との関係 (学校の中でのトラブル)		30分
12:00～12:30	スクールカウンセラーから見た保護者と学校 (不登校の対応)		30分
12:30～13:30	昼食		
13:30～14:50	教育でありがちな事例のロールプレイ (前項3項目)		
14:50～15:45	具体的に体験した困難事例を抽出・検討 (紙に書いて提出)		
15:45～16:15	質疑応答・修了証授与		15分
17:00～	懇親会(メンターのみ)		

2 日目:「公開講座:身体医療とのつきあい方」(一部公開講座)

斜字は一般公開

時 間	内 容	講 師	
9:30～9:35	主催者挨拶		
9:35～10:15	自閉症・発達障害にまつわる最新医療情報		40分
10:15～12:15	「身体医療との付き合い方Ⅰ」 医療従事者から		2時間
12:15～13:15	昼食		
13:15～14:45	「身体医療との付き合い方Ⅱ」 歯科医療から・看護側から・体験した立場から パネルディスカッション		1時間半
14:45～15:45(メンターのみ)	ペアレントメンターに関する医療関係相談への対応		60分
15:45～16:15	質疑およびまとめ		30分

① 会場

2010・・・名古屋市高齢者就業支援センター

② 講師・インストラクター・メンター

井上雅彦(鳥取大学), 吉川徹(名古屋大学医学部附属病院), 原口英之(筑波大学大学院), 小倉正義(鳴門教育大学大学院), 竹澤大史(愛知県コロンネ発達障害研究所), 加藤永歳(足立区教育相談員), 大澤功(公立校教員), 茶谷カンナ(あいち発達障害者支援センター), 堀口麻由美・

後藤沙織(名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋), 氏田照子(日本発達障害ネットワーク),
加藤香(愛知県自閉症協会)

③ 公開講座演者

大屋滋(千葉県自閉症協会・旭中央病院), 糸山暁(糸山歯科医院), 野田孝子(北海道自閉症協会), 加藤香(愛知県自閉症協会)

6)応用研修Ⅲ

【対 象】ベーシック修了者(要修了確認)

【定 員】30～50名

1 日目 テーマ「メンターに必要なサポート」

時 間	内 容	講 師
10:00～10:30	基本を思い出そう	30 分
10:30～12:00	ストレスマネジメント	90 分
12:00～13:00	昼食	
13:00～15:00	他のメンターの相談を受けるためのロールプレイ (困難事例をただただ黙って傾聴・共感する)	2 時間
15:00～15:45	ワーク(ストレス解消法)	45 分
15:45～16:15	質疑応答・修了証授与	30 分

2 日目 「公開講座:成年後見について」

斜字は一般公開

時 間	内 容	講 師
10:00～10:05	主催者挨拶	
10:05～12:00	成年後見について	2 時間
12:00～13:00	昼食	
13:00～14:30	シンポジウム 弁護士から・行政から・後見センターから・保護者から	1 時間半
14:30～15:00(メンターのみ)	成年後見の鑑定について	30 分
15:00～15:30(メンターのみ)	成年後見に関する相談への対応	30 分
15:30～16:00(メンターのみ)	成人期の困った相談への対応	30 分
16:00～16:15	質疑およびまとめ	15 分

① 会場

2011・名古屋大学鶴舞キャンパス 鶴友会館, 名古屋市高齢者就業支援センター

② 講師・インストラクター・メンター

井上雅彦(鳥取大学), 吉川徹・大沢佑輝(名古屋大学医学部附属病院), 日詰正文(長野県健康福祉部), 原口英之(筑波大学大学院), 小倉正義(鳴門教育大学大学院), 竹澤大史(愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所), 加藤永歳(日本発達障害ネットワーク), 大澤功(公立校教員), 榎並恭子・小川真紀(名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋), 茶谷カンナ(あいち発達障害者支援センター), 氏田照子(日本発達障害ネットワーク), 加藤香(愛知県自閉症協会)

③ 公開講座演者

西村武彦(道央法律相談所), 日詰正文(長野県健康福祉部), 今井友乃(知多地域成年後見センター)
岡田ひろみ(愛知県自閉症協会)

7)応用研修Ⅳ

【対象】ベーシック修了者(要修了確認)

【定員】30～50名

1日目「公開講座:メンター活動について」

斜字は一般公開

時間	内容	講師	
10:00～11:45(メンターのみ)	今までの活動の報告、及び今後について (愛知のメンター限定)		
11:45～12:45	昼食		
12:45～13:15	セミナー会場準備		
13:15～14:45	主催者挨拶 メンターの活動、施策について メンターのサポート体制について 各地のシステムについて 活動に関わる留意点など		1時間半
14:45～16:15	メンター活動の取り組みの発表 キャラバン活動・サポートブック研修 ペアレントトレーニング補助・サロン まとめ		1時間半
16:15	終了		

2日目 テーマ「様々な家族に対する支援」

時間	内容	講師	
9:45～10:45	きょうだい支援について		60分
10:45～11:45	祖父母について		60分
11:45～12:45	昼食		
12:45～14:45	ロールプレイ(きょうだい、祖父母に関わる相談)		2時間
14:45～15:30	グループ発表		45分
15:30～16:00	質疑応答・修了証授与		30分

① 会場

2012・名古屋市高齢者就業支援センター、名古屋大学鶴舞キャンパス 鶴友会館

② 講師・インストラクター・メンター

井上雅彦(鳥取大学)、吉川徹(愛知県心身障害者コロニー中央病院)、日詰正文(長野県健康福祉部)
原口英之(筑波大学大学院)、小倉正義(鳴門教育大学大学院)、竹澤大史(愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所)、加藤永歳(日本発達障害ネットワーク)、大澤功(公立校教員)、榎並恭子(名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋)、小松正明(あいち発達障害者支援センター)、氏田照子(日本発達障害ネットワーク)、加藤香(特定非営利活動法人愛知県自閉症協会・つぼみの会)

③ 公開講座演者

井上雅彦(鳥取大学)、吉川徹(愛知県心身障害者コロニー中央病院)、日詰正文(長野県健康福祉部)
安井貴子・三井春枝(特定非営利活動法人愛知県自閉症協会・つぼみの会)、延江美穂子(NPO法人岡山県自閉症協会)、岸田あすか(NPO法人シフオーネット)

8)応用研修Ⅴ

【対象】ベーシック修了者(要修了確認)

【定員】30～50名

1日目 テーマ「公開講座:発達障害の診断基準の移り変わり、性への対応」 斜字は一般公開

時間	内容	講師	
10:00～11:30	愛知メンターのミーティング		2時間
11:30～13:00	昼食		
13:00～14:45	発達障害の診断基準の移り変わり		1:45
15:00～16:45	性への対応について		1:45

2日目 テーマ「未就学の支援について」

時間	内容	講師	
9:45～10:45	就学前の支援の総論		60分
10:45～12:15	未就学児への支援 未診断事例の相談の留意点 各種療育機関との付き合い方 保育園・幼稚園に関する		90分
12:15～13:15	昼食		
13:15～15:30	ロールプレイ		2時間
15:30～16:15	グループ発表		45分
16:15～16:45	質疑応答・修了証授与		30分

① 会場

2013・・・名古屋市高齢者就業支援センター

② 講師・インストラクター・ペアレントメンター

井上雅彦(鳥取大学), 安達潤(北海道教育大学旭川校), 吉川徹(愛知県心身障害者コロニー中央病院), 小倉正義(鳴門教育大学大学院), 原口英之(星槎大学), 竹澤大史(愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所), 加藤永歳(日本発達障害ネットワーク), 望月直人(大阪大学キャンパスライフ支援センター), 井上菜穂(鳥取大学), 大澤功(公立校教員), 榎並恭子・栖村はるみ(名古屋市発達障害者支援センターりんくす名古屋), 中澤和美・磯西舞(あいち発達障害者支援センター), 加藤香(特定非営利活動法人愛知県自閉症協会・つぼみの会)

③ 公開講座演者

井上雅彦(鳥取大学), 吉川徹(愛知県心身障害者コロニー中央病院)

6. 研修の意義

いわゆる養成研修と言われているパッケージ(ベーシック、フォローアップ、サポートブック作成リーダー養成研修)の後の研鑽として、ライフステージに見られる各種研修を行ってきました。5年間、9日間に渡る数々の内容でリソース強化が完了したと思っています。ライフステージごとの項目は下記の通りです。

診断から就学まで……応用研修Ⅴ(就学前の支援)

就学、義務教育……応用研修Ⅱ(学校)

思春期……応用研修Ⅴ(性)

成人期以降……応用研修Ⅲ(成年後見)

生涯にわたって……応用研修Ⅱ(医療)、Ⅳ(きょうだい、祖父母)

スキル向上など……応用研修Ⅰ(困難事例への対応)、Ⅲ(基礎の振り返り、ストレスマネジメント)

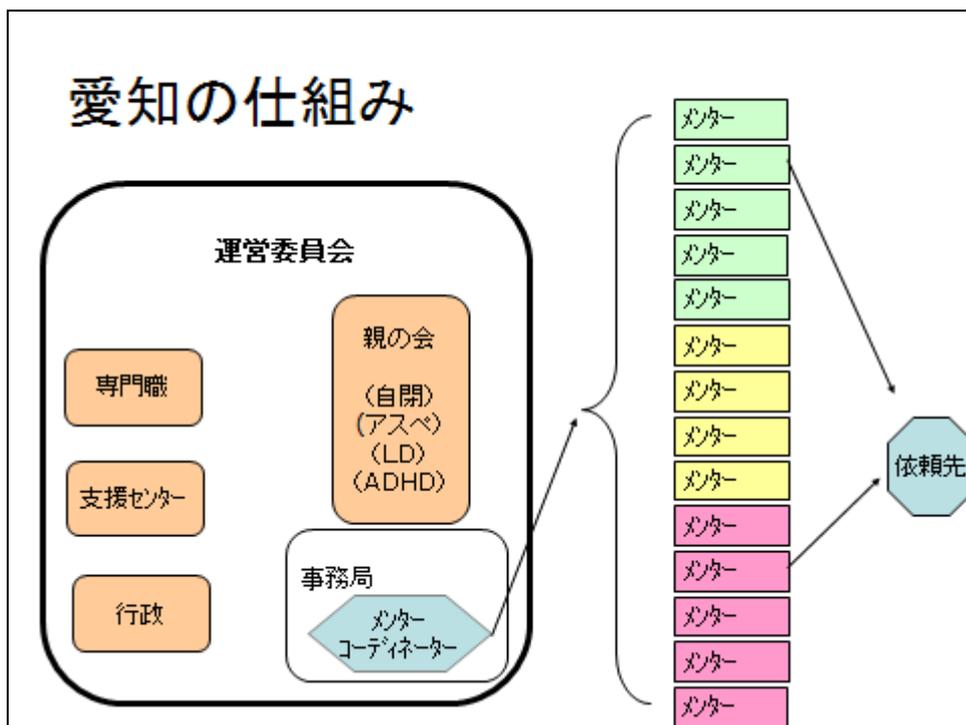
外部への発信……応用研修Ⅰ(支援者向け)、Ⅳ(概論、メンターからの発表)

これら一通りの研修を終了し、これ以上の研修についてはペアレント・メンターの質の向上というよりは、本来の活動テリトリーを越えた知識が入りすぎてしまう恐れも見えてきました。したがって、養成研修後の研鑽という内容での項目については上記 10 項目で十分ではないかという見解に達しました。なお、4 年連続で行っている事例検討会については、活動が続く限り、メンターの負担にならないよう定期的に行っていく必要があり、行政、自治体で活動を推進していくためのメンターサポートと同じくして、事例検討会は年 2 回は開催していただくよう予算を検討していただきたいと思います。

なお、これら応用研修を終了した地区においても、養成研修が続く限り、新しいメンターが誕生するわけですので、養成研修のローテーションにこれらの研修の入れ込んでいただき、メンターの活性化につなげていただきたいと思います。

7. 愛知県での各活動について

愛知県は発達障害関連団体(自閉症協会、アスペルゲドの会、LD親の会、えじそんくらぶ)がそれぞれ機動力を持ち、自主運営ができてきている体制に、ペアレント・メンター事業が積み上げられた形になっています。したがって、養成研修後の活動への移行がスムーズにいった例になるかと思えます。愛知県発達障害者支援開発試行事業の一環として2008年の養成研修ができたのも、日ごろから各団体で連携している土台があったからかと思えます。現在、四団体のメンターが協力し合い、行政の研修に参加をしています。



愛知県では2011年度より、関連団体、発達障害者支援センター、県行政、専門職らによる「ペアレント・メンター等活動推進連絡会」を組織し、メンター活動や研修計画についての情報共有を行うとともに、活動や研修のあり方について意見交換を行っています。2012年度には、ペアレント・メンター倫理規定を策定し、連絡会のウェブサイト (http://pmjapan.umin.jp/aichi/Parent_Mentor_Aichi/index.html) の運営を開始しました。今後は、メンター活動ガイドラインの作成や、コーディネーター養成・配置事業などについても検討し、メンター活動をバックアップできる環境の整備に向けて活動を継続していきます。

愛知県のコーディネーターは2013年度から2代目に入り、現在2名で担当しています。一年を終え、これから次のフェーズに代わってきます。愛知県、名古屋市という大きな自治体規模のものではなく、各市区町村というところから問い合わせなどもあり、これから愛知県下での仕組みづくりも時代に合わせて変化していく必要も感じています。このあたりは2代目コーディネーターが各市町への情報発信などこれから進めていくかと思えます。

8. 今後の課題

前述のように現在の愛知県は2名のコーディネーターのもと、活動・養成研修が進んでいます。今年度55名の登録者がその活動に派遣され、延べ700名の方々との出会いがありました。年々活動数、派遣延べ数、出会う方々の人数が増えてきています。しかし、愛知県すべてに対応できているかというところではなく、大きな市町、あいち発達障害者支援センターからの事業委託を受けている地域などであるのが現実です。今年度市町村より「養成研修をしたい」という声があり、コーディネーターが対応しておりますが、養成研修後すぐ活動ができる、マルチに対応できると思っている行政担当者が多く、メンターがどのように養成され、またその業務がどのような特性のもと地域で活動できているのか、また、サポートが重要であるという部分が知られていない現状があります。メンター活動の表面だけでなく、その細部にわたり理解していただくことが、メンター活動、およびサポートには不可欠になります。

今後、メンター活動、サポート以外にも、このような市町への活動理解・推進を促すためにも、愛知県では2代目コーディネーターのもと新しいフェーズに対応する検討が必要になってきます。全国的にも先進的と言われている（愛知県内部はそのような認識はありませんが）愛知県がどのような動きをしていくかにより、今後全国で起こりうる状態においての一定の指針が準備できるのではと考えます。

9. 最後に

2005年の養成研修受講、2007年から日本自閉症協会での企画委員を経て、愛知県での活動、活性化、コーディネーター業務、日本ペアレント・メンター研究会の発足、コーディネーターの引継ぎと8年間はあっという間でした。地域で養成研修を行い、活動を活性化して軌道にのるまでにおおよそ5年はかかると思います。また、同時に、養成されたメンター同士の交流、研修後の研鑽、事例検討会も必要となり、養成だけでなく、その後の研修ビジョンを考えていく必要があります。また、メンターの、メンタルヘルス、サポート、業務内容のまとめ・分析など、コーディネーターには様々な業務、アンテナが求められます。この8年の流れをまとめることで、何が自分の地区に必要になり、優先順位をどうつけていくのか、など考えていただくきっかけになればと思います。

愛知県における事業は第2フェーズになりました。今後はコーディネーターのサポーターとして、自身の経験を伝えていければと思います。

平成26年3月10日

特定非営利活動法人愛知県自閉症協会・つぼみの会

加藤 香

